



総合科学としての 情報セキュリティ

情報セキュリティ大学院大学

学長 辻井 重男

講演の流れ

1. ITによる社会構造の変化

D A D A

2. 学際的情報セキュリティ総合科学の体系化

3. 情報倫理

4. 日本と情報セキュリティ

5. 情報セキュリティ人材の育成

講演の流れ

1. ITによる社会構造の変化

D A D A

2. 学際的情報セキュリティ総合科学の体系化

3. 情報倫理

4. 日本と情報セキュリティ

5. 情報セキュリティ人材の育成

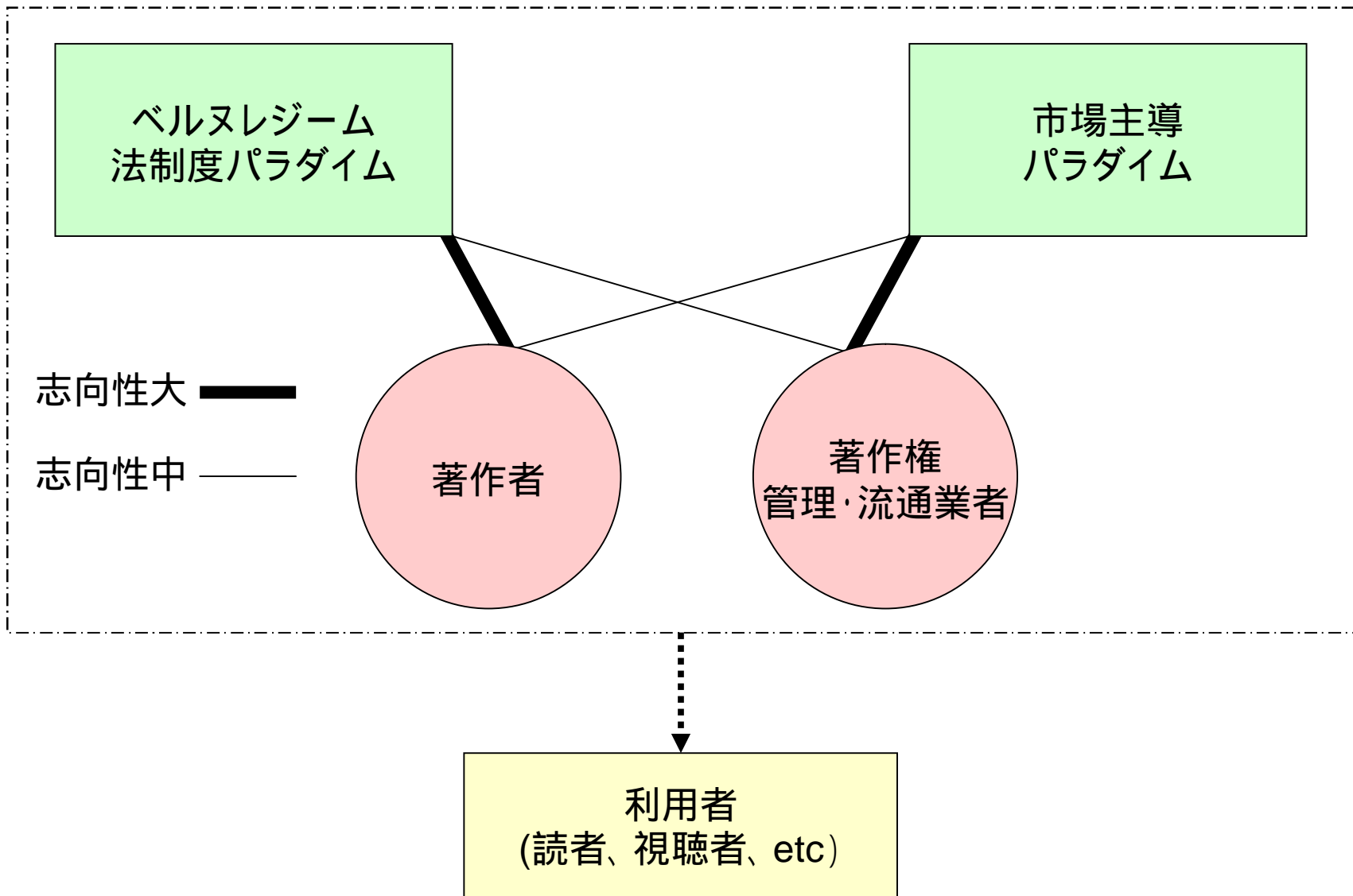
デジタル即アナログ

- 放送と通信
- 生産者と消費者
- 事業者と個人
- 社外と社内
- 職場と自宅
- 営利と非営利
- 国家と国家

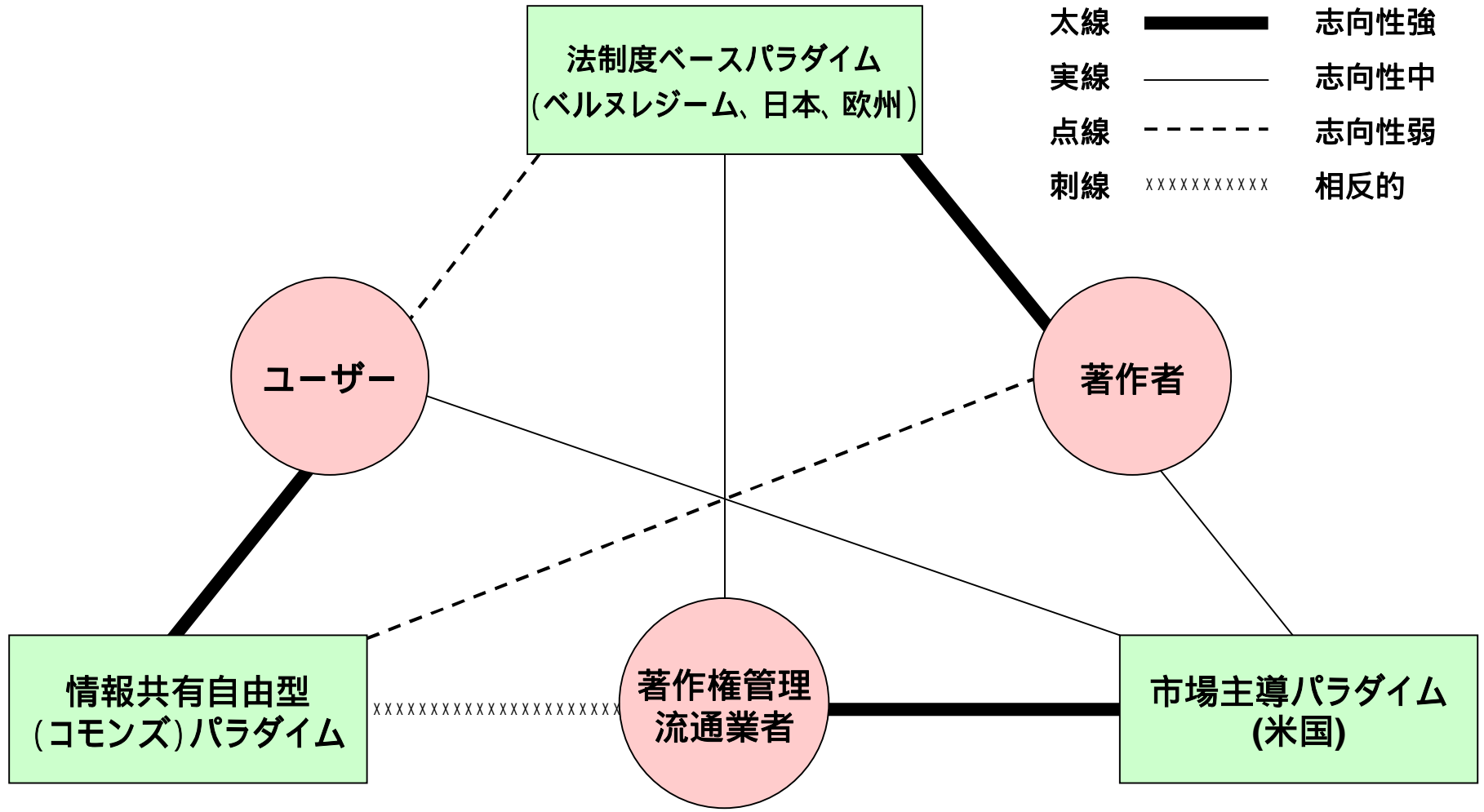
デジタル技術による社会構造の連続化

- 著作者と読者
- 被害者と加害者
- 仕事と遊び
- 社員と非社員
- 公と私
- 政治家と国民
- 文科系と理工系
- 虚と実

著作者と読者の場合



2つのパラダイム



3つのパラダイム(ベルヌレジーム、市場主導型、情報共有自由型)
 と利害関係者(著作者、著作権管理流通業者、利用者)の相関

講演の流れ

1. ITによる社会構造の変化

D A D A

2. 学際的情報セキュリティ総合科学の体系化

3. 情報倫理

4. 日本と情報セキュリティ

5. 情報セキュリティ人材の育成

情報セキュリティの理念

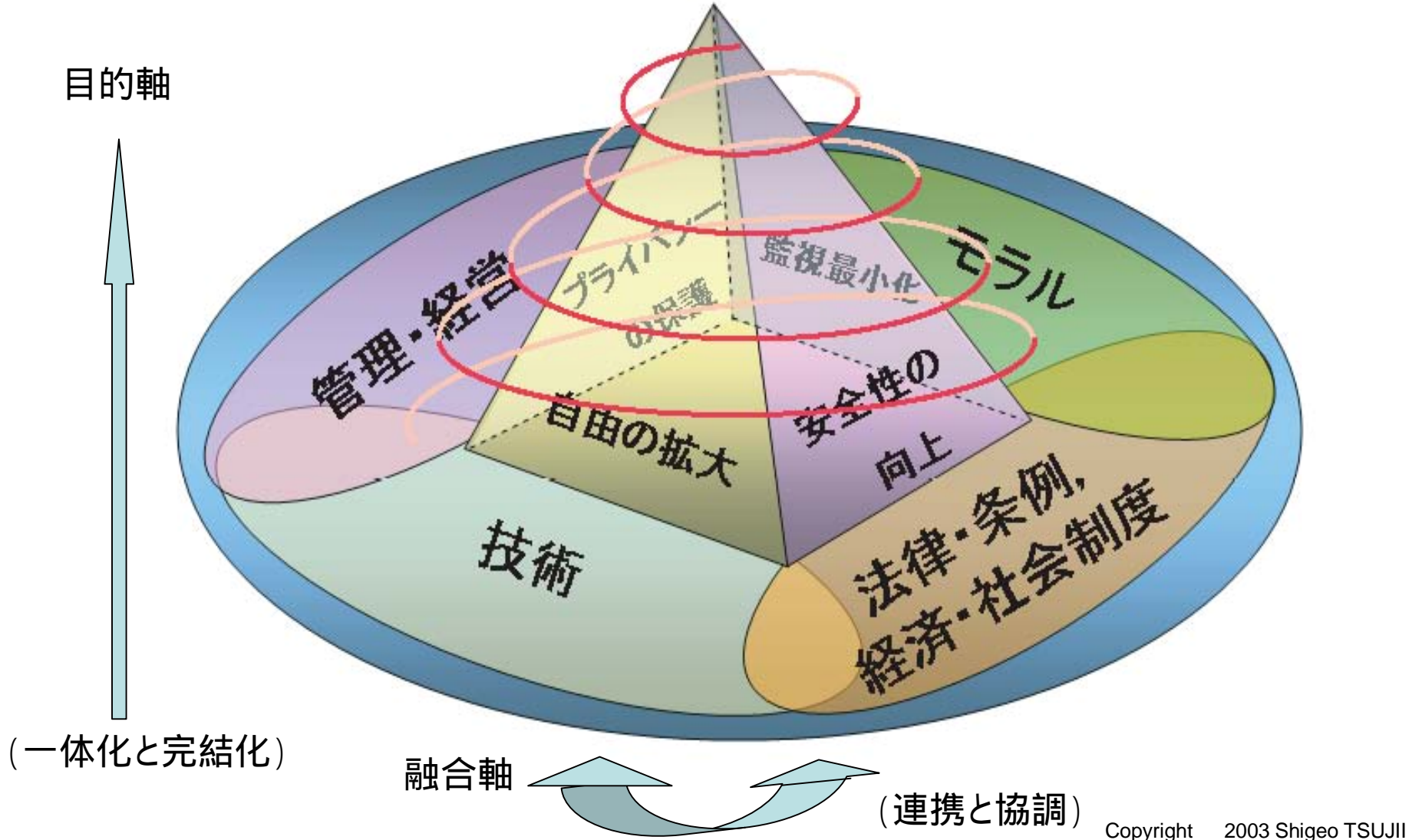
「情報技術によって拡大した自由を損なうことなく、

“技術、管理運営手法、法律・社会制度、情報モラルを相互に深く連携させ、協調させて、
利便性、効率性と安全性の向上、プライバシーの保護、および監視社会の最小化を同時に達成することを目的とする、
一体性と完結性を持つ社会的基盤システムを構築するためのダイナミックなプロセス”

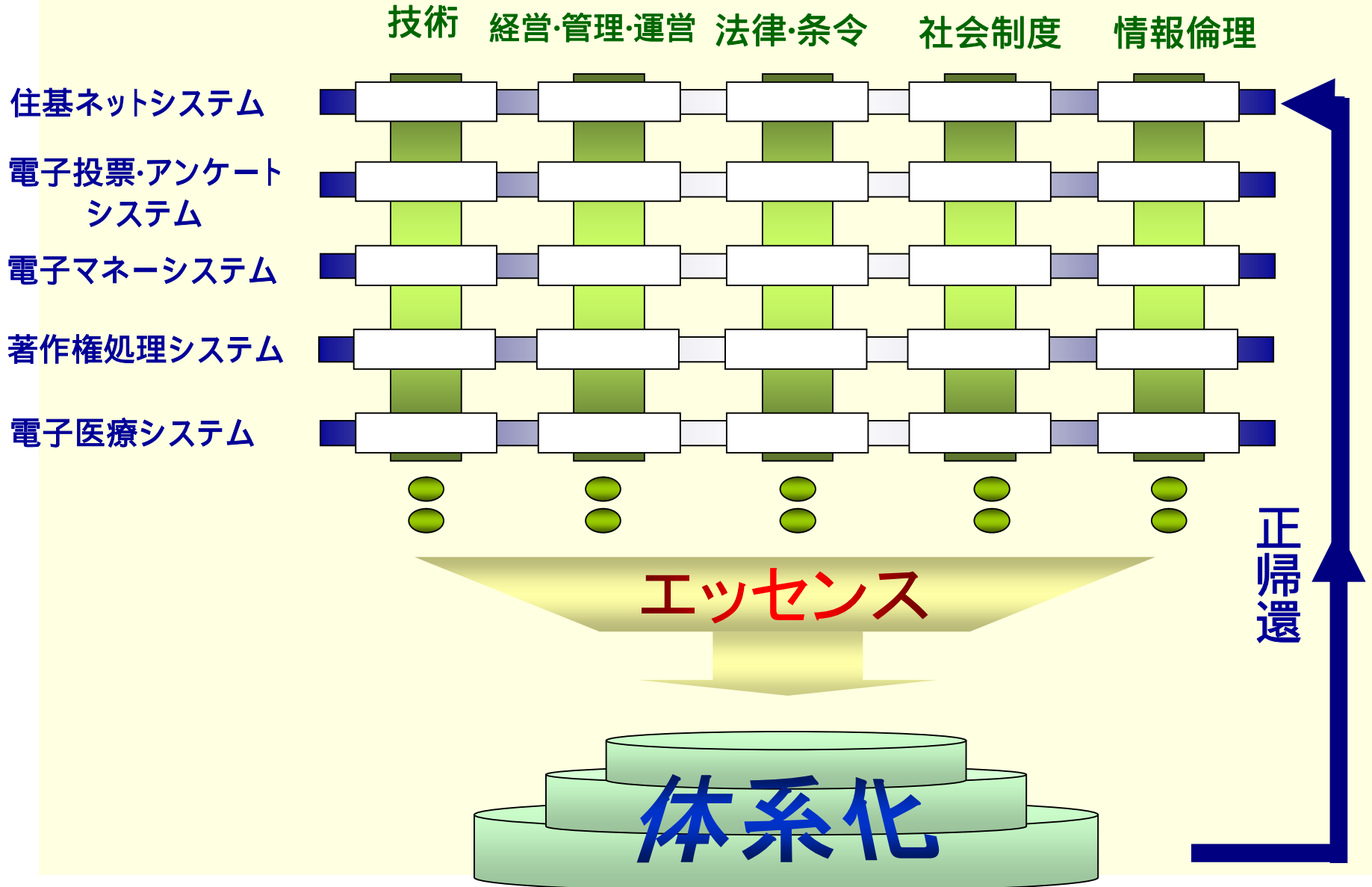
である」 (辻井の定義)

情報セキュリティの理念

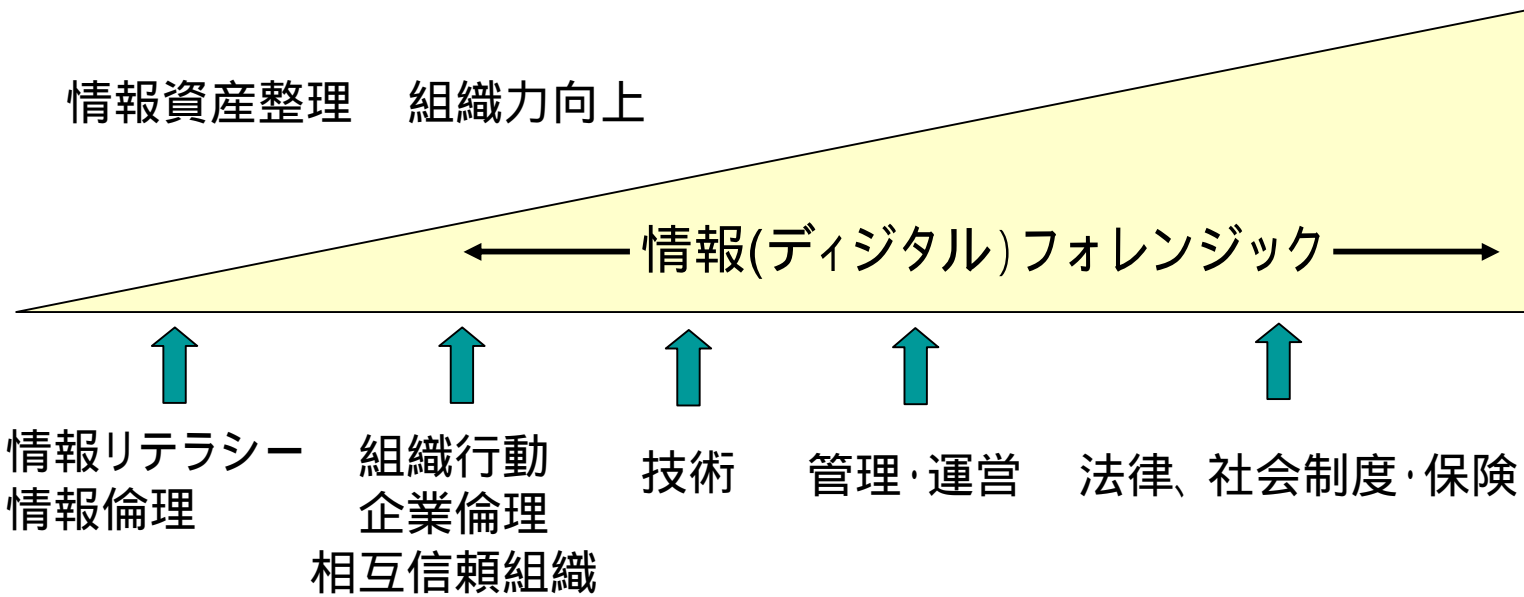
セキュアな社会基盤の構築



情報セキュリティ総合科学の構築へ向けて



個人情報保護 組織・社会安全 (利用)



内部規範社会



精神構造改革

契約社会

講演の流れ

1. ITによる社会構造の変化

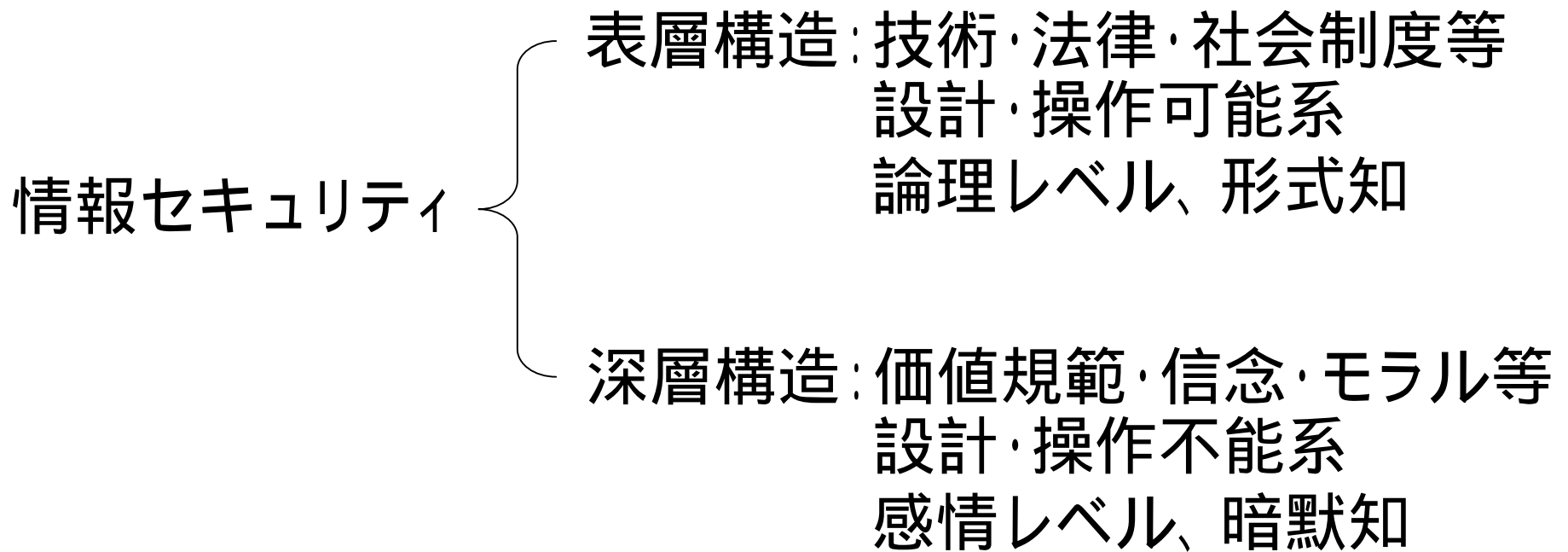
D A D A

2. 学際的情報セキュリティ総合科学の体系化

3. 情報倫理

4. 日本と情報セキュリティ

5. 情報セキュリティ人材の育成



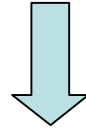
プライバシー感覚の変遷

村落共同体 → 都市型社会 → ネットワーク社会

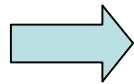
日本の場合：精神構造改革

情報倫理から見た学際性

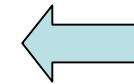
管理・運営, 経営, 経済



技術



情報倫理

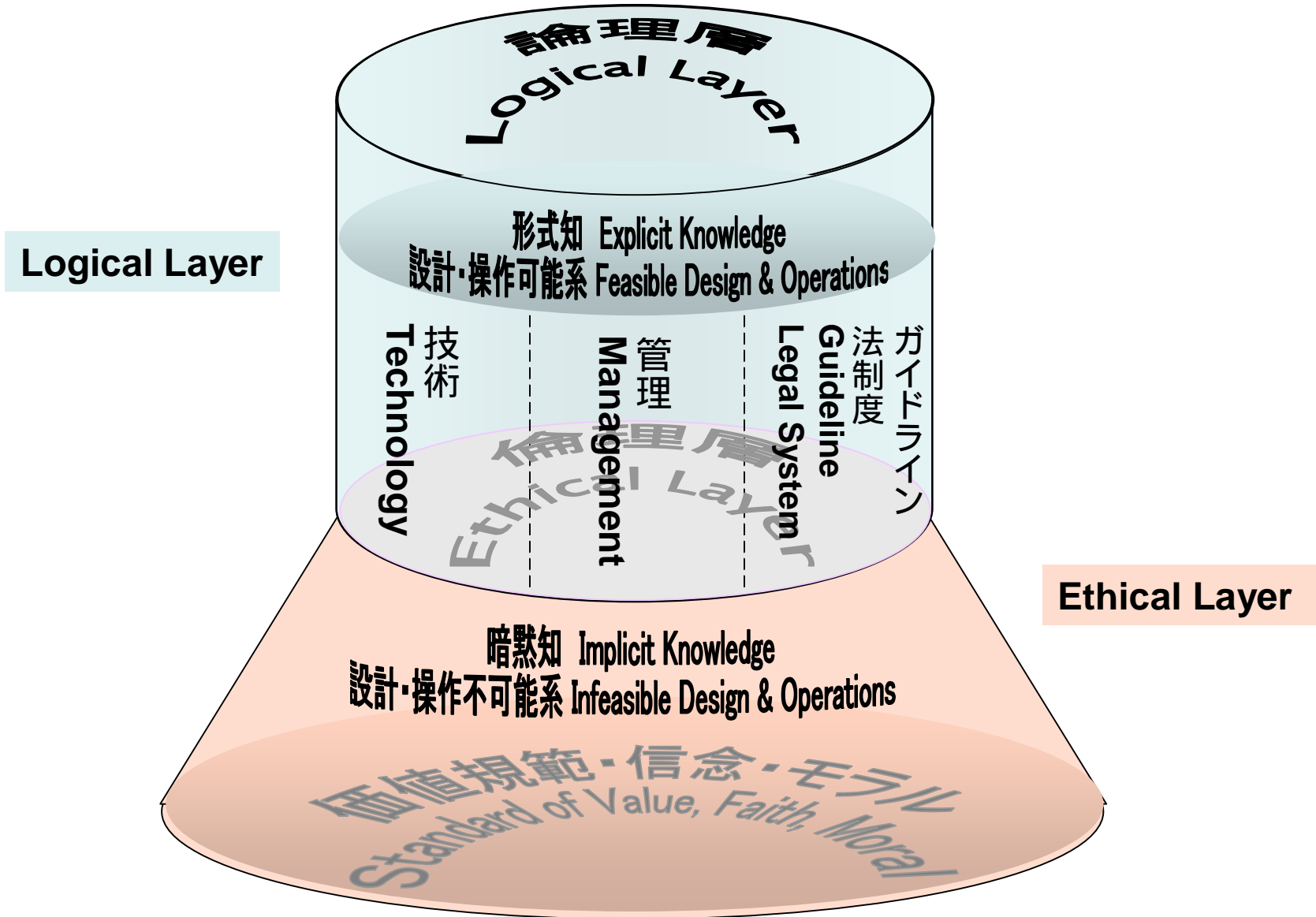


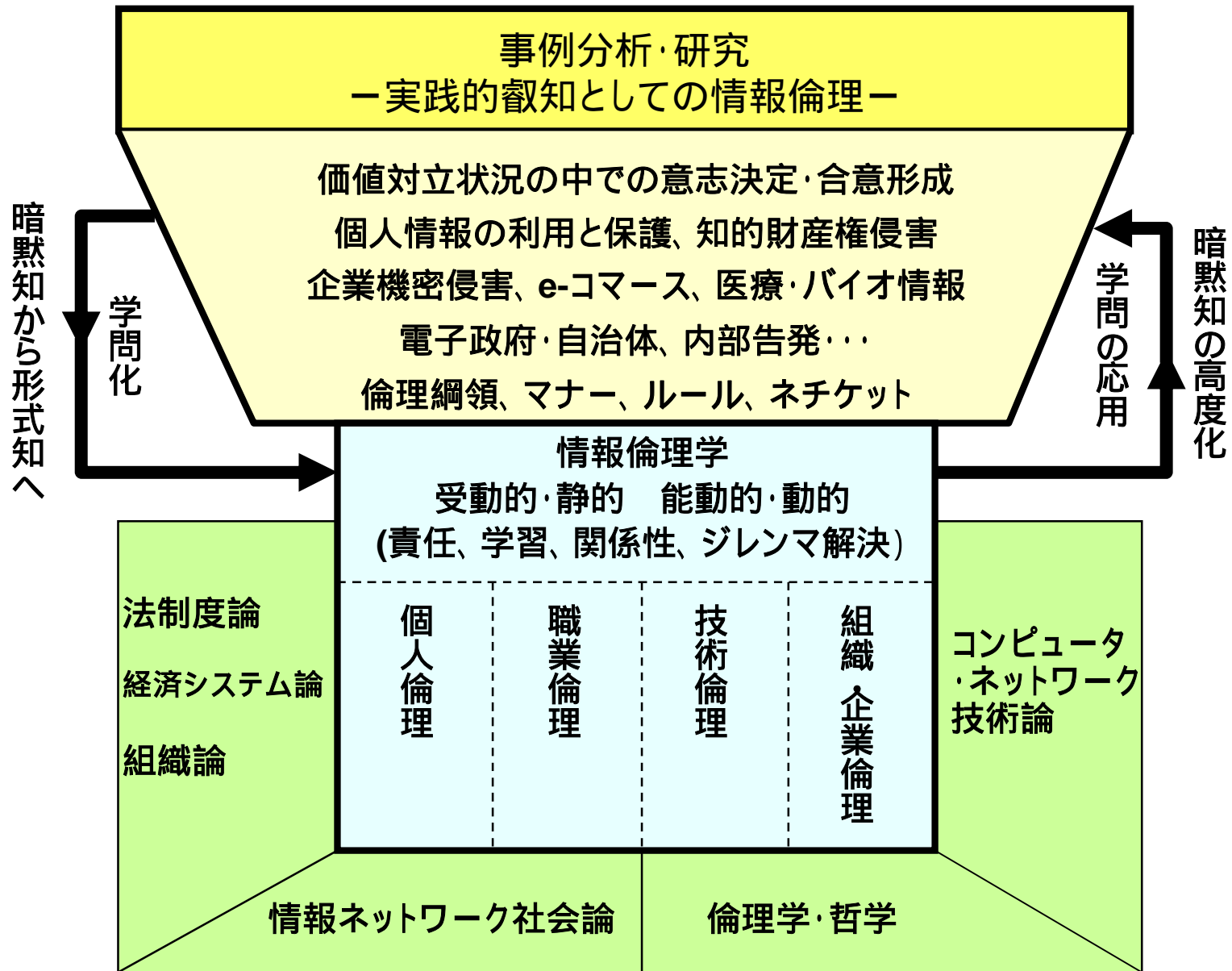
法律, 社会制度



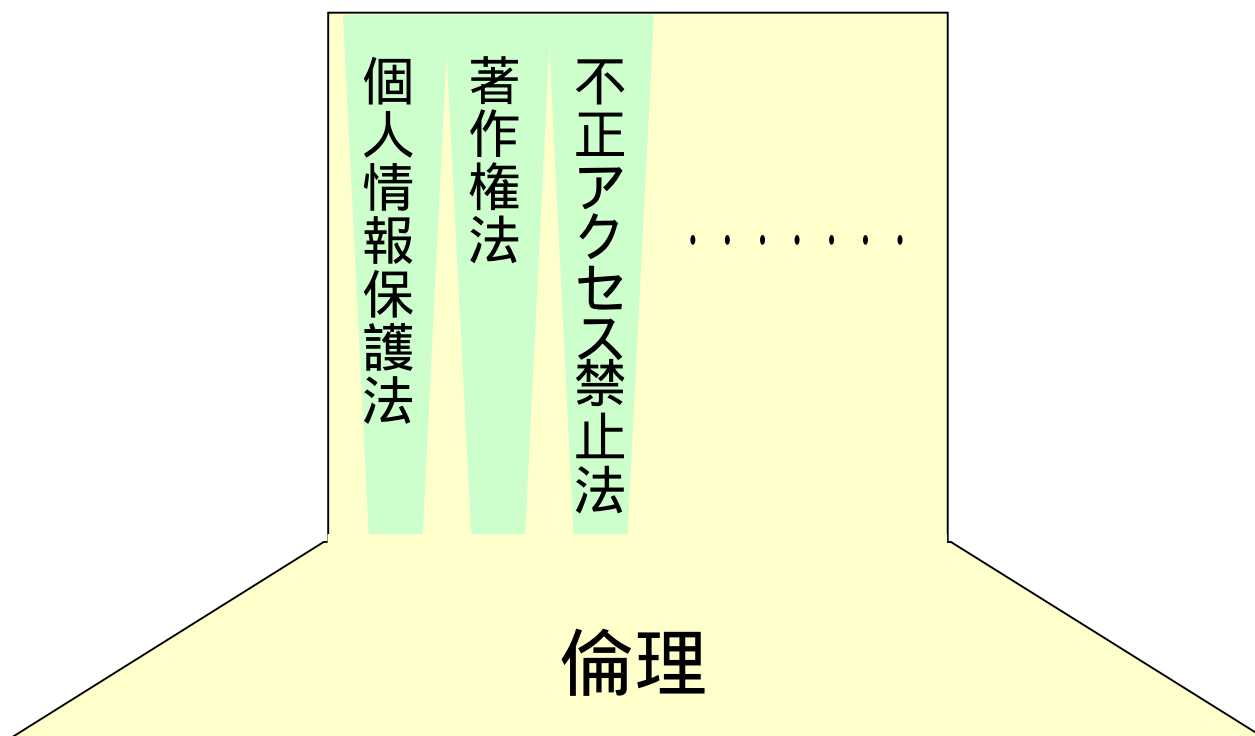
哲学・倫理学







情報倫理の構造



倫理に基づく法制度と情報倫理の相互関連の一例

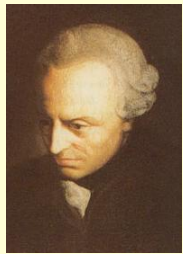


Confucius(551 BC - 479 BC) Chinese philosopher

「従心所欲、不踰矩。」 - 論語

「心の欲する所に従いて、矩(のり)を踰(こ)えず。」

“I could follow my heart's desire without transgressing the norm.”
- *The Analects*



Immanuel Kant (1724 – 1804) German philosopher

“Handle so, daß die Maxime deines Willens jederzeit zugleich als Prinzip einer allgemeinen Gesetzgebung gelten könnte.” - *eine Form seines Kategorischen Imperatives*

“Act as if the maxim of thy action were to become by thy will a universal law of nature.” - *Categorical Imperative*

「汝の意思の格率が常に同時に普遍的立法の原理に照らして妥当するように行え。」
- 定言命法の一形式

講演の流れ

1. ITによる社会構造の変化

D A D A

2. 学際的情報セキュリティ総合科学の体系化

3. 情報倫理

4. 日本と情報セキュリティ

5. 情報セキュリティ人材の育成

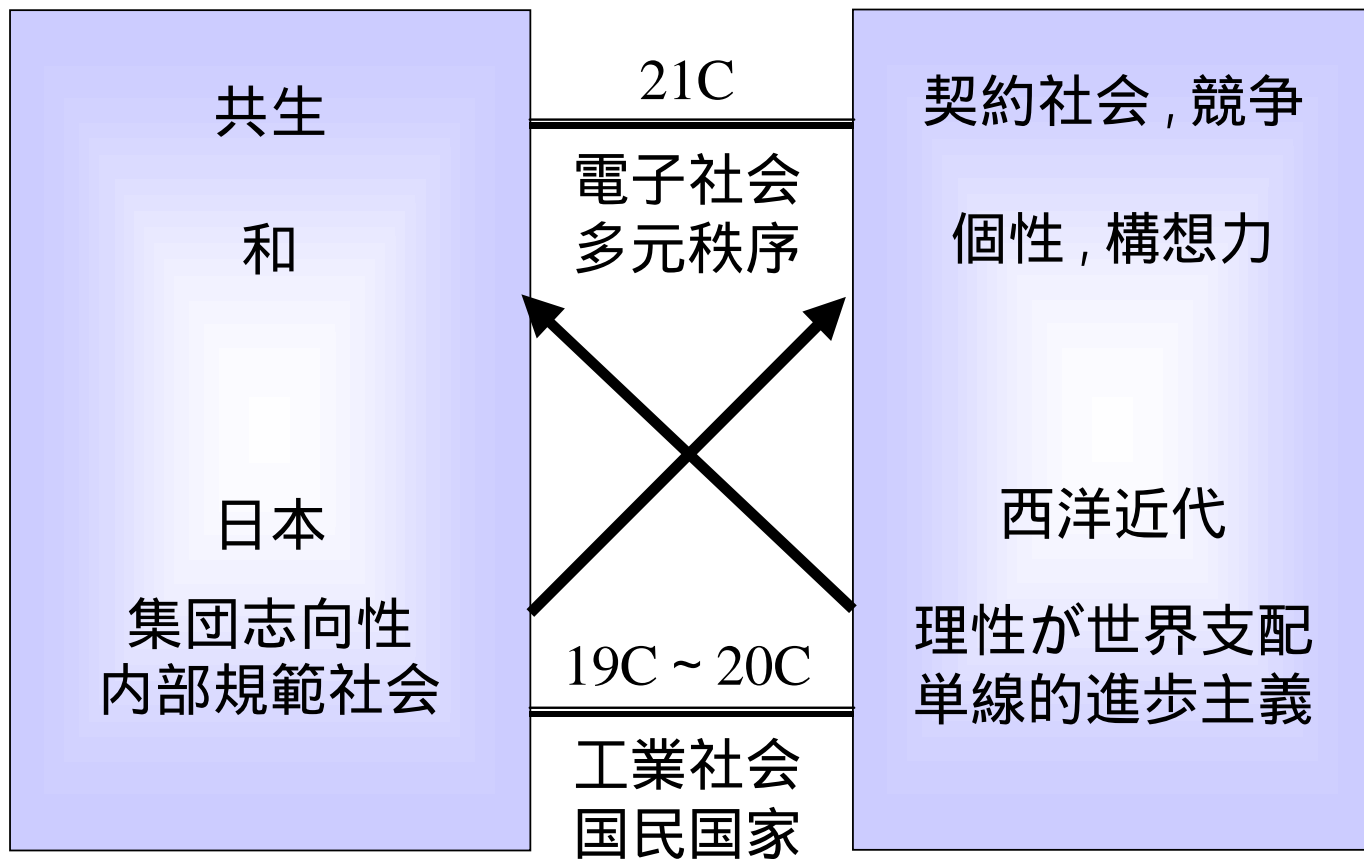
日米の情報セキュリティ比較

項目	国	YES	NO	分らない
情報セキュリティを理解しているか	日本	41 %	45 %	14 %
	米国	65 %	35 %	0 %
上位管理者の積極性	日本	43 %	33 %	24 %
	米国	83 %	17 %	0 %
予算は十分か	日本	8 %	47 %	45 %
	米国	34 %	66 %	0 %
セキュリティ専任者は足りているか	日本	11 %	49 %	40 %
	米国	29 %	71 %	0 %

失敗の歴史に学んだか
大島大使のドイツ情報
クリントン前大統領府の対日政策
情報収集・分析・活用

近代を超克したのか、
回避してきたのではなかったか

内部規範社会から契約型社会へ
個人情報保護・利用等とデジタルフォレンジックの衝撃



21世紀のイメージ

講演の流れ

1. ITによる社会構造の変化

D A D A

2. 学際的情報セキュリティ総合科学の体系化

3. 情報倫理

4. 日本と情報セキュリティ

5. 情報セキュリティ人材の育成

国家の役割

夜警国家(治安、防衛、外交)

+ 公正・平等(セーフティネット)

+ 教育・研究

ユーザー企業トップの意識は？

情報セキュリティ人材育成

情報化と男女共同参画

2007年問題とCISO(補佐)

セキュアな電子社会を推進する
情報セキュリティ大学院大学
設立の理念



高度な 情報セキュリティ・マネージャと 情報セキュリティ・エンジニアを目指す 3つの専門コース

- セキュアシステム(ネットワーク・ハード・ソフト)コース
- 暗号と認証技術コース
- セキュア法制と情報倫理コース

辻井 重男 プロフィール



1958年東京工業大学工学部電気工学コース卒業。情報セキュリティ大学院大学学長、中央大学研究開発機構教授、東京工業大学名誉教授。工学博士。電子情報通信学会会長、総務省電波監理審議会会長、日本学術会議会員等歴任。電子情報通信学会論文賞、業績賞、功績賞等受賞。IEEE Life Fellow, 第三千年紀記念賞受賞。総務省「電波の日」総務大臣表彰(2003年度)。日本放送協会「第55回放送文化賞」受賞。著書「暗号 - ポストモダンの情報セキュリティ」(講談社メチエ選書)、「暗号と情報社会」(文藝春秋社)、「電子社会のパラダイム」(新世社)等。